釧路市立北中学校「学校だより」

北　魂

令和７年（2025年）10月27日発行　VOL 30

校長に求められる資質・能力

釧路市立北中学校長　冨　田　直　樹

23日（木）、24日（金）に香川県高松市で開催された全日本中学校長会研究協議会に参加しました。全国から約1,800名の中学校長が一堂に会し、文部科学省主任視学官から次期学習指導要領改訂についての説明を受けたり、東京大学教授から最新の生成AIの状況を教えていただいたり、学習指導や生徒指導、カリキュラム･マネジメント、キャリア教育など現在の教育課題について８つの分科会に分かれて協議を行ったりしました。分科会は第６分科会（研究題：自他を敬愛し他者と協議しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実）に参加し、広島県呉市、新潟県柏崎市、島根県出雲市、福岡県福岡市、高知県大里町の校長と「生徒・保護者との信頼関係の構築」、「不登校生徒の支援の在り方」について協議を行いました。本校で取り組んでいる「不登校対策総合実践事業」（道教委指定）の実践を紹介するとともに、各地区、各学校での取組を教えていただきました。地区、学校によって抱えている課題は様々で、当該の課題の内容を踏まえた多種・多様な施策が用意され、各学校が戦略をもって取組を進めていることが分かりました。生徒指導に関する各種調査結果の活用など、すぐにでも本校で実践してみたい取組がたくさんあり、とても勉強になった２日間でした。あと４ヶ月の中で１つでも還元できればと考えています。

さて､高松市での２日間で全国各地の多くの校長と出会いました。学校経営についての話を聞いたり、意見交換したりする中で改めて校長に求められる資質・能力について考えてみました。

校長は学校の最高責任者として、リーダーシップを発揮し、学校教育目標の実現のために学校経営を行います｡その土台となるのは、明確な教育理念と学校経営ビジョンです。校長の識見、専門性、リーダー性、人間性等を総合して構築し、それを発信、共有し、浸透させていく力が必要です。その上で、校長に必要な力を全日本中学校長会研究協議会で出会った校長の姿から紐解きます。

①危機管理のマネジメント：教育の質や安全・安心の質をより高め、心理的安全性が確保された風通しのよい職場づくりに取り組むこと。②人材育成：学校は児童生徒の教育の場ですが、教職員を育てる場でもあります。組織内での連絡・調整を図り、校務分掌の配置を工夫する等、学校の組織力向上を念頭に置いた経営を行うこと。③働きやすい環境づくり：教職員の業務状況や健康状態等を踏まえ､円滑にコミュニケーションを図りながら、仕事にやりがいを感じることができる、働きやすい職場環境づくりを推進すること。④教育の情報化：効果的にICT及び情報を活用し、業務の軽減と効率化、児童生徒に対する教育の質の向上、学校経営の改善を図るために必要な校内体制を確立すること。⑤関係機関との連携・協働：様々な課題に対応するため、チーム学校として地域や保護者、関係機関とビジョンを共有して連携・協働を図ること。

出会った多くの校長たちから、改めて自分が理想とする校長像を明確にもつことが重要であることを認識したところでした。